

(3) 食品安全モニター報告の活用について：平成15年10月分～平成19年11月分から「リスクコミュニケーション関連」を中心に意見の要約と検討結果

＝本報告は詳細報告の要約である＝

検討結果

食品安全モニターは行政機関において広く外部からその活動について意見を収集しました必要に応じてするという仕組みとしてわが国ではたいへんユニークであり貴重なものである。モニターとして採用されるには一定の手続きと資格らしきものがあるとはいえ特別制限を設けておらず、この意味では非常に自由に意見と感想が寄せられ食品安全委員会はこれらに対応する上で法的な責務を負っていないとはいえ、どのように外部から寄せられた批判や賛辞を生かすかが問われている。特に批判や提案については、これまで十分なしえていなかった事柄に関するものであり、中には見当違いの意見もあるだろうが傾聴すべきであろう。すでに回答され対応が取られているものもあるが、回答の中にはまだ形式的と受け取られる場合もあり、今回提示した評価スキームに照らしてさらなる検討が必要と考える。

意見の要約

全般

食品安全委員会は評価機関で管理機関でない点が理解されておらず両者の違いを明確に
食品安全委員会の活動を国民に周知
リスク評価や管理が正しくてもリスクコミュニケーションが不備では機能せず踏込む必要
メールマガジン 20号委員随録から安心と安全の違いの啓発が重要で危険と不安の議論のすりか
えがあり政府は食品安全確保に万全を期し議論は安全に絞るべき
行政情報を開示するだけでなく正確に広報する必要
食品安全委員会と欧州食品安全庁は仕組みと業務はリスク評価と同様でマスコミ対策を含め
食の安心が大切
ダグマー・ハイム博士が消費者組織への十分な働きかけと信頼を得る努力を力説したが消費者が
納得できる方法を検討すべき
食品安全を守るために大切なのは消費者が関心を持ち正しく判断できることで行政は正しい
情報を伝え知識向上のため啓蒙活動を継続的に実施
安全な食生活には生産者、消費者が正しい知識を得る仕組みや機会を設け各人が健康な食生活を
リスクを数値でとらえ質の異なるリスクを比較する習慣が消費者に必要
消費者の理解が大切でわかりやすく説明し気軽に相談できる機会や人材の育成等を
食品の絶対安全はあり得ず安全と安心の違いの理解を深める努力が必要
リスクを冷静に判断できる知識が消費者に必要でわかりやすく正しい情報が不可欠
食育や食品の安全の教育問題は大切で年少期のしつけや食生活のマナーやルールの教育は重要
消費者間の理解度の差を埋めるには食育の知識を深め身近な言葉で事例を伝える人材の育成を
生産者と消費者との信頼関係を構築するため両者と専門家を交えた討論や食育が必要
一部学者が食品添加物の毒性をあげ危険食品と決めつけるが反論広報で消費者の不安感解消を
生産者・取り締まりは規則どおりにしても倫理に欠ける経営者や不信感を煽る無責任な記事への
対策が必要
農薬、食品添加物等の安全性データと使用の恩恵を公的機関が中立の立場で積極的に開示を
食品添加物や農薬等を使用せず食糧生産は難しいことを消費者は知らないので情報提供を
リスクコミュニケーションには関係者相互間の信頼が必須だが偽装表示行為は根底を揺るがす

発信内容と発信手段の検討

食品の効果やリスクについて正確でわかりやすい番組制作を
バランスが一番ということを消費者が理解できる報道や書籍が増えることを望む
子供も理解できる啓発資料や現場で使える教材を

健康情報番組の情報を消費者が自ら判断できるような基本知識を広めることが必要
発信者は情報の科学的根拠にした結果を公表する仕組みを
大手菓子メーカー等の問題について食品安全委員会として随時報告を
米国産牛肉の輸入条件を知らない人が多いので要約版を作りPRを
生産、流通の様子が不透明なので不安になる消費者に対して積極的な情報の提供を
学校給食につき可能な限りの情報提供と質問要望が言える窓口の設置を希望
よくわからない危うそうな言葉があふれ初歩的な疑問、誤解にも答える努力が必要
権威ある科学者等による子供向けでないQ&Aの充実
リスクコミュニケーションを円滑に推進するため食育概論が必要不可欠
リスクコミュニケーションの担い手として消費生活アドバイザーの活用が有効では
食品安全委員会の情報は新聞やテレビを活用し全ての国民に行き渡るようにすべき
食の絶対安全はないが一般消費者にわかりやすく平易な言葉での季刊誌、情報案内を望む
安全主眼の料理教室を主宰、新聞で「食品安全委員会発足1年」を読み消費者の立場でわかりやす
い言葉やかみくだいた内容での情報開示と窓口を期待
重大問題発生時は市町村と連携しわかりやすく繰り返し見られるパンフレット等の各家庭への
配布は多くの人々の理解を得る方法として有効
理解しやすく、不安感が解消できるようなテキストの発行が必要
関係省庁が立場による対応を述べ理解しづらくBSE全頭検査の科学的根拠は乏しいとする学識
経験者の見解が報道されたが政府見解は専任の報道官が実施すべき
食品安全の討論、発表、研究、検査等の結果を広く国民に知らせることが大切
食品安全への目を一般消費者が持つには現場を使う広報活動（フェアやキャンペーン）と生産者
や食品関連事業者に責任を強く意識させる

食品安全モニター会議

質疑応答時間が多くモニターの取り組み事例報告が良かった
目的を明確にして参加者が目的を持って参加できるようにすべき
対象地域を狭め20名程度までとし発言しやすい環境を整える必要
モニターの発言方法と時間に工夫が必要
モニター同士の意見交換の配慮が必要
いつ、どのような発言を求めるか明確に、一問一答にしないで、時間厳守、ビジョンを明確に
BSEリスクとソラニン毒性を比較説明され余計に不安
リスク評価の意味を理解し消費者の目で伝える人材が必要

意見交換会

地方都市で開催を感謝
食の安全実践セミナー参加
モニター会議や意見交換会の講演内容が専門的すぎ難解。一般向けシンポジウム開催を
説明会や意見交換会の開催日時が平日昼間では参加できず土日夜開催の考慮を
意見を聞く時間を取り説明を短くしたことを評価
より一層安全性につき共有化がはかれるよう①ポイントを絞り②基調講演とシンポジウムの
論点を合わせ③会場発言の論点も合わせるよう依頼④司会進行役の力量をあげる
消費者の啓蒙が大切で、会合を広く知らせわかりやすい話し方の工夫が必要
農薬ポジティブリスト制度パネリストとして制度新設の意義と適用の肯定的評価ととんでも
ない制度であるとの反省
農薬ポジティブリスト制度の各省の取組み理解。パネリストの選択は適切に
米国・カナダ産牛肉輸入の説明会

タイムリーな企画で専門調査会委員の講演により難解な内容の理解
改善要望①急遽の開催②主催者側の一方的説明と司会進行③難聴者の配慮の欠如。国のモニター
一等の説明も必要
BSE テーマ会合(東京)でパネリストは業界代表であることを自覚し、国も公平性への配慮を
全国9箇所で開催、机や休憩なく主催者は茶を飲み国民を軽んじ米国産牛肉輸入再開シナリオ
の一端と認識

機関紙・メールマガジン

見上委員長の寄稿記事に賛成：安心の求めすぎ傾向是正を期待
委員随録は本音が書かれ読み応えがあり
専門用語の解説より活動内容の最終結果が消費者にいかにも有効か説明を
横浜市や東京の取組みから広報に電子メール配信等が必要

地域活動

企業見学会で安全に一層の理解が深まるので行政だけでなくNPO法人・団体に委嘱し実践
地域指導者育成講座を継続的・定期的に行い修了者に活動支援や指導者の権限を
構成メンバーと講演テーマや演習の課題に疑問あり善処を希望
市民フォーラム(残留農薬とポジティブリスト制度)は現場の生の声を聞き制度導入の理解と
食の安全を考えるよい機会
自治体主催意見交換会に参加：自治体と協力し市民対象のリスクコミュニケーション推進を
国と県市町村が連携、役割分担しわかりやすい情報を
食の安心・安全フォーラム(兵庫)コーディネーター経験：パネルディスカッションをリスクコ
ミュニケーションと位置づけ工夫しよい評価が得られファシリテーターの役割を認識
兵庫県では毎月県広報誌に生産者と安全の取組みが報告されBSEや遺伝子組換えのリスク
評価や食の安全情報が広く正確に伝わるよう自治体を通じアピールすればそれらを目にし生
産者を身近に感じ不信感を払拭
千葉県で「しっかり選ぼう消費者の知恵で」のテーマで消費者フォーラムを開催したが消費者
の積極的な参加
消費者の不安を取り除くには地域だけでなく国が調査報告や安全を注目する形で伝えるべき
食品安全と地域の経済発展に地産地消を社会が育て消費者と生産者のコミュニケーションを図
り学校教育で子供たちに関心を持たせる食育を
大切な正しい科学的情報を学校、地域の公民館、保健所、医療関係施設等に働きかけ掲示し、保
護者や子供向けのプリント配布など義務付け風評被害抑制効果も

報道

ニュージーランドFood Safety AuthorityはホームページにResponse to Mediaのコーナーを
設けメディアの話題にコメントしているがこの取組みを参考にしてみてもどうか
消費者の情報入手はマスコミが多く食品安全委員会の情報を正確な報道のため対マスコミの
丁寧な解説と広報活動強化を要望
マスメディアはインパクトのある報道をするが健康影響に正しさを欠く面があり正しい報道を
するようメディアを指導しては
誤解を招く放送やまちがいを正しいと放送したときに正しく管理する国のシステムが必要
テレビの健康情報が国民の健康に与える影響につき評価することも必要
発信情報を無作為に抽出し情報の審議や危険度検証のシステムを
学説に複数の学者の認定を要する仕組みや健康被害発生の場合に番組内容に安全指導の検討を
関係者に十分な科学的教育を不明確な報道が流れないシステム作り

食品違反事故報道は不安を煽り選択に誤りや誤解が生じない公正な内容になるよう指導を健康被害が起きないようにテレビ番組に食の安全性面をもっと充実させる仕組みを報道機関担当者に基礎的知識や旬な話題提供など啓蒙と工夫が必要
納豆ダイエットのテレビ報道に振り回される国民に正しい知識の啓蒙

「白インゲン豆ダイエット」健康被害を例に健康情報の安全性に関し行政も情報収集し国民に啓蒙、放送局の責任と視聴者のリテラシーが問題
米国産牛肉輸入再開時のマスコミの報道を視聴：単なる批判精神で報道するのは無責任
季刊誌「食品安全」(Vol. 7) 寄稿・委員の視点を読み表現の自由があるとはいえ良識あるマスコミの言動を期待

ホームページ

キッズボックスのさらなる充実、専門家にも一般にも対応を
生活者の情報収集に資するため健康被害情報を分かりやすく迅速に提供を
ホームページ情報は大変役に立ち、もっと危険因子を知りたいが専門的なリスクの説明は理解しがたく不安を解消する幅広い情報公開を
BSE等の情報を関係者が共有し危険発生時に不安要因の特徴を理解し対処する必要
専門的過ぎ一般消費者には理解困難で子供や知識のない方向けに興味を持てる別ページを

用語集

ルールブックとなる用語集の役割は大
専門家・情報提供者は具体的な語彙の知識やリストを明示する必要

事例

冷蔵保存した生ジャガイモの高温過熱でアクリルアミドの生成を知ったが広く情報提供が必要
鳥インフルエンザ発生時は鶏肉消費の消費者判断が難しかったが大腸菌 0157 等の食中毒につき消費者が正確な判断ができるよう情報を早く公開
アカネ色素のTV報道でくわしくわかりやすい説明を要望
BSEを含めたオランダ・EUの状況を聞き国民の信頼性を得るよう迅速・透明・わかりやすい報道の必要やオランダで企業の食製品の品質に重点を置き違いを認識
厚生労働省審議会の水銀含有魚介摂食の注意事項と勧告は具体的で消費者の注意喚起に効果的で実生活に役立つ情報開示の方式を定着させて消費者は冷静に判断可能